

I. 令和4年度(令和4年4月～令和5年3月)事業報告

1. 事業概要

当財団は大正2年(1913年)にはじまるライオン講演会を活動の原点とし、大正10年(1921年)に開設した「ライオン児童歯科院」が前身となっています。平成22年(2010年)10月からは「公益財団法人ライオン歯科衛生研究所」となり、「国民に口腔衛生の普及啓発を図り、併せて健康と福祉に寄与すること」を目指して諸活動の実践にあたってまいりました。

令和3年度は、「新しい生活様式に対応した予防歯科行動定着に向けた普及啓発の推進」を年間の活動方針として定め、口腔保健普及啓発事業(公益目的事業-1)、調査研究事業(公益目的事業-2)、教育研修事業(公益目的事業-3)を推進するとともに、公益事業のさらなる推進に資する目的で口腔保健に関する収益受託事業を実施いたしました。

事業の推進にあたっては、関連諸団体との連携強化ならびに活動評価の充実・体質化を継続して図るとともに、常に事業の質的向上と効率的運用を目指してまいりました。コロナ禍における口腔保健の重要性の啓発を継続、事業改革の柱である医療従事者を巻き込んだ普及啓発の具体的施策の推進、および各種事業のステークホルダーとの連携強化を行ってまいりました。

1) 口腔保健普及啓発事業(公益目的事業-1)

母子から高齢者までのライフステージ毎の活動を基本として、健康生活行動の習慣化を目指して口腔保健啓発活動を推進しました。生活者へは講演・実習・HP等を通じて指導、情報発信を行なうとともに、保健指導者には教材の開発・提供を通じて支援活動を展開しました。地域活動では行政、歯科医師会、関連団体等と連携して、健康な地域づくりの支援を行いました。

2) 調査研究事業(公益目的事業-2)

国民の健康の増進と福祉に寄与する事業を目指し、口腔保健関連研究として、口腔の状態、口腔保健行動に関する調査研究、口腔と全身健康に関する研究など幼児から高齢者を対象に活動を推進しました。

3) 教育研修事業(公益目的事業-3)

保健指導者、歯科専門家に対して、最新の歯科情報に関するセミナー、講演会を開催しました。

4) 口腔保健に関する収益受託事業(収益事業-1)

企業の求めに応じ、講演活動、セミナーなどの口腔保健に関する事業を実施しました。

2. 事業報告

1) 口腔保健普及啓発事業（公益目的事業－1）

生活者個人と地域社会に対する口腔保健の普及啓発、教材の開発・頒布を行い、健康の増進と福祉に寄与する事業

口腔保健啓発手法の開発を進め、学校や企業等の保健指導者へ普及を図るとともに、予防歯科の実現にむけて、生活者の口腔保健意識の向上と健康行動の習慣化を支援しました。実施にあたっては、ライフステージ毎の活動を基本に、行政、歯科医師会、地域団体等外部諸団体と協働で推進しました。

(1) ライフステージ毎の健康意識の向上と健康行動の習慣化を目指した口腔保健啓発手法の開発と評価、ならびに保健指導者への提供、支援

①母子歯科保健活動

妊婦と乳児期、幼児期の親子を対象にした口腔保健活動を支援するとともに、妊産婦向けイベント等で親子を対象に口腔保健啓発活動を実施しました。

②小学校歯科保健活動

ア) 指導者支援

保健指導者（養護教諭等）が自主的に活用できる教材や媒体を開発・評価し、財団ホームページからの提供を通して、学校歯科保健活動の普及啓発に努めました。

イ) 全国小学生歯みがき大会

第79回全国小学生歯みがき大会（令和4年6月1日～6月10日）を、「歯と自分をみがこう」をテーマに、学習内容を収録したDVDや教材を参加小学校にお届けする形式で開催しました。各主催団体と連携するとともに、各地区の歯科医師会、教育委員会の協力を得て、国内外から総計4,585校（約25万人）の小学校に申し込みを頂きました。COVID-19のまん延状況を考慮し大会の開催期間を令和4年度内は実施可能とすることで、小学校に柔軟に参加頂けるようにいたしました。

③思春期歯科保健活動

オーラルケアへの関心の低下がみられる思春期向けの啓発活動の検討を進めました。

④成人歯科保健活動

ア) 企業内での歯科健診等を通じて、受診者が口腔保健意識を高め、歯科医院での定期受診につながるように、受診者の口腔内の自己管理能力の向上に取り組みました。

イ) 企業内保健推進者にむけて、歯科健診や歯科啓発講演が健康への気づきや健康生活習慣の向上につながることを発信し、保健師等が行なう歯科保健活動を支援しました。

ウ) 口腔と全身健康の関連性の情報について発信し、成人の健康意識の向上を図りました。

⑤高齢者歯科保健活動

高齢者に効果的な口腔清掃と口腔機能の保持・向上に役立つ手法の指導を実施しました。

⑥その他歯科保健活動

ア) 相対的貧困世帯の児童に対する歯科保健活動

相対的貧困世帯に対する歯科保健活動に取り組みました。

イ) 障がい者歯科保健活動

手話による歯科保健指導に取り組み、聴覚障がいをもつ児童、生徒に対する健康教育を支援しました。

ウ) 被災地での歯科保健活動

震災等によって被害を受けた地域の人々に対し、各地区の行政、歯科医師会等と連携して歯科保健活動の支援に取り組みました。

エ) 児童相談センター歯科保健活動

虐待やネグレクト等を受けて一時保護されている幼児、児童、生徒に対し、歯科医師や施設スタッフと協働して歯科保健指導を実施しました。

(2) 生活者および保健指導者への歯科口腔保健情報の発信

①生活者に対し、常に新しい情報を取り入れながら、ホームページを通じて情報発信を実施しました。

②保健指導者に対し、歯科口腔保健の指導に役立つセミナーを開催しました。

③保健指導者に対し、ホームページを通じて最新情報を発信し、歯科口腔保健活動の普及啓発支援を継続しました。

(3) 口腔保健啓発教材の開発およびその頒布

保健指導者の活動支援に重点を置き、各ライフステージに対応した新たな教材開発とその普及を推進しました。また、その内容をホームページで公開し、教材の普及を推進しました。

2) 調査研究事業（公益目的事業－2）

口腔保健関連研究を通して国民の健康の増進と福祉に寄与する事業

広く国民の口腔保健意識の向上、ならびに自律的かつ継続的な口腔保健行動の定着を図るため、効果的な口腔保健行動につながる方法の開発、口腔保健の重要性に関する情報の蓄積、および科学的な歯科疾患予防に関する情報の蓄積と技術の開発を目指し、以下の（1）（2）の研究を推進し、健康の増進に役立つ最新情報と具体的なケア法の提供に努めました。得られた成果は学会活動・論文発表などを通じて社会に情報発信しました。

（1）口腔の状態、口腔保健行動に関する調査研究

- ①乳幼児期から小児期に至る口腔細菌叢の推移と、食・生活習慣等の影響に関する調査研究を継続し、学会発表を行いました。
- ②高齢者における唾液分泌量の実態と、唾液分泌と咬合状態の関連性を明らかにする研究を推進しました。

（2）口腔と全身健康に関する研究

- ①歯科健診受診者を対象に研究を行い、職域成人における全身健康と嚥下機能の関連性や、成人男性における歯周病と脂肪肝およびその線維化との関連性について学会発表を行いました。また、歯科健診結果と歯科医療費の関連性に関する論文が掲載されました。
- ②もの忘れ外来患者を対象に、認知機能低下と歯周病病態、口腔機能低下の関連性に関する横断研究結果について、学会発表を行いました。
- ③小児の口腔内の状態や口腔機能と口呼吸の関係の明確化に取り組み、小児の口腔機能に関する臨床的評価法として鼻腔通気度の測定結果について学会発表を行いました。
- ④ダウン症を有する小児の口腔細菌叢を解析した結果について、論文を投稿し掲載されました。
- ⑤環境因子が唾液分泌に及ぼす影響や、唾液分泌量の改善方法に関する研究を引き続き推進しました。

（3）論文掲載、学会発表

研究の成果は、論文掲載3件（財団所員筆頭3件）、学会発表8件（財団所員筆頭6件）となりました。

（4）科学研究費助成事業による研究

令和2年度文部科学省・日本学術振興会の「科学研究費補助金 基盤研究(C)」1件、令和3年度文部科学省・日本学術振興会の「科学研究費補助金 基盤研究(C)」1件、令和4年度文部科学省・日本学術振興会の「科学研究費補助金 基盤研究(C)」1件の調査研究を実施しました。

3) 教育研修事業（公益目的事業－3）

保健指導者、歯科専門家に対して、公1（口腔保健普及啓発事業）、公2（調査研究事業）の成果および最新の歯科情報に関するセミナー、講演会を開催し、歯科保健に関わる関係者の質的向上を通して、国民の口腔と健康の保持増進に寄与する事業

歯科専門家（歯科医師、歯科衛生士等）、保健指導者を対象に下記セミナーを開催しました。

①ライオン歯科衛生研究所 予防歯科セミナー

COVID-19 のまん延状況を考慮し、WEB オンライン形式で開催しました。（令和4年4月17日開催）

②財団歯科衛生士が講師を務め、保健指導者向けの講演を3件実施しました。

4) 口腔保健に関する収益受託事業（収益事業－1）

企業の依頼に応じ、講演会、セミナーなどで口腔保健に関する事業を実施しました。